

製作に係る記録等の保存・活用について

令和7年3月



- ・製作に係る記録等の保存・活用については、第4回監修会議（2024.3月開催）で、記録別の所有・保管に関する考え方の案を示し、下記の意見があった。

■製作に係る検討記録についての意見

- ・ 国の仕事と県の仕事の両方を総合して「首里城復元」であることから、まとめて保存・管理できる方法を考えたほうがよい。 保存するための施設を作るのかなど、国と県で本議論のみを議題とした会議の場やグループを作った方がよいと考える。
- ・ 次の大修理の際に令和の復元では何を根拠にして製作したのか、または推定して製作したのか把握できるよう会議記録を含め製作にかかる記録を残す必要があると考える。出版物で完了報告書をつくることが第一歩だと思うが、報告書に盛り込むことができない資料もあることから、一括での保存を考えていただきたい。
- ・ 行政の担当部署で資料を保存するのは困難であることから、公文書館などにまとめていくことになると考えられる。それまでの間に何を残すのかを整理する必要がある。

■製作過程で発生する実物資料についての意見

- ・ 出来上がったものを遠くから眺めるだけでなく、製作過程を示す資料を保存して現物を見せた方がよい。 石膏原型や下絵などは、細かなものまで確認することができる。
- ・ デジタルデータで残しておけば問題ない製作物と、現物を保存する必要がある製作物とで区分けをしていく作業が必要になるのではないだろうか。製作に関わる方々の判断が大きいと思うが、教育現場などとの関係も含めて検討する必要がある。
- ・ 現段階から残すべき石膏原型等を確認し、リスト化していくことが重要である。
- ・ 各製作物の再現性について、今回の復元は平成の復元と異なりデジタル技術が進化していることから、デジタルデータを活用できると考えている。但し、デジタルデータのみでは再現できない点もあると思われることから、保管先の確保等を含め、製作物に優先順位をつけ保管先を含めて検討が必要であると認識している。（事務局）

2. 製作記録の保存・活用に関する考え方

※第4回監修会議提示資料に赤字部分を追記



- 製作記録については、動画や写真類の他、検討過程を編集し整理した記録集などがあり、製作の進行に応じて撮影した記録類や検討資料類を今後とりまとめる。
- 一方、製作過程で発生する下絵や原型等は原則一括して保存することが望ましいが、前回復元の製作物を含め、**長期保存を考慮しながら**、所有先を個々に精査していく必要がある。
- 今回新規に製作する製作過程資料(下絵・原型等)は、①人材育成、②首里城復元・復興に関する展示や情報発信、③将来の改修に備えるなど、様々な活用方法が想定されるため、今後の活用を踏まえた上で、所有・保管のあり方も引き続き検討する。

【記録別の所有・保管に関する考え方】

分類	記録媒体	資料の帰属先	保存の考え方	活用の考え方
製作に係る写真、動画、 図面等	【デジタル資料】 ・写真 ・動画 ・ 施工図 ・ 下絵データ ・ 原型/完成品3Dデータ	沖縄県 (※)	<ul style="list-style-type: none"> 電子データとして保存 (通常の行政記録ではなく長期保存を原則) 下絵、原型等や完成品を電子データ化し保存 	<ul style="list-style-type: none"> 製作概要の情報発信を検討 製作過程の記録集(今後要編集) 教材用記録(今後要編集) 実物資料との連携で活用可能な体制を検討
製作に係る検討記録	【紙/デジタル資料】 ・監修会議、WG部会資料 ・会議議事録 ・会議成果(記録集等)	沖縄県 (※)	<ul style="list-style-type: none"> 電子データとして保存 (通常の行政記録ではなく長期保存を原則) ※検討過程を示すものであり、資料と議事録(日付等)はセットで残す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> HPにて公開 製作結果について精査しとりまとめた記録集を今後作成
製作過程で発生する実物資料	<ul style="list-style-type: none"> 下絵 石膏原型(樹脂等含む) 部分試作/試し彫り 金型 	沖縄県 または 国	<ul style="list-style-type: none"> 前回製作物は、現在の所有者にて管理 新規製作物は、国または県管理 (活用の考え方①～③に応じた管理主体) 	<p>主な活用目的別に保管手法を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ①人材育成：高校や大学等での教材利用 ②展示や情報発信：首里城公園内や公共施設等での展示・収蔵(国/県で保管) ③将来の改修：国へ寄託
その他 関連資料	<ul style="list-style-type: none"> 委員及び関係機関の論文、報告資料 	執筆者・ 著作者	<ul style="list-style-type: none"> 検討記録と一括保存(著作者許可に基づく) 	<ul style="list-style-type: none"> 著作者の許可に基づき活用(執筆者名・資料等を原則記載)
	<ul style="list-style-type: none"> 古写真 ・ 絵図 写真 	所有者	<ul style="list-style-type: none"> オリジナルは所有者が保存 検討記録と一括保存(所有者許可に基づく) 	<ul style="list-style-type: none"> 所有者の許可に基づき活用 (許可条件に合致する場合のみ)

※首里城復興に関する著作物に関する第三者の使用については、「首里城復興関連著作物使用要領(案)」に基づき使用申請を事前に提出して対応

3. 製作過程で発生する実物資料(下絵・原型等)

番号	石彫刻分野 製作物名称	下絵	原型	原型保管箱	サイズ(mm)
1	礎盤 (向拝の柱の礎盤、礎石含む)	—	平成石膏を借用	なし	Φ420×230, φ470×170
3	大龍柱	—	下部のみ石膏製作 (平成石膏を借用)	なし	600×1,000×1,100@2
5	小龍柱	—	石膏製作	なし	220×300×1,450@2
6	石高欄及び登高欄 親柱上の獅子	—	石膏製作	有り	□200×250@12

番号	木彫刻分野 製作物名称	下絵	原型	原型保管箱	サイズ(mm)
11	唐破風 妻飾 (火焰宝珠, 墓股, 金龍, 瑞雲)	製作	石膏製作	有り	1,000×1,700×200@3
12	唐破風 懸魚	製作	—	—	—
13	入母屋破風 懸魚	製作	—	—	—
14	向拝 透欄間 (牡丹唐草、獅子)	製作	国の平成石膏を借用	なし	450×3,780×100
15	向拝奥の彫刻物 (牡丹に獅子・唐草)	製作	(樹脂原型/部分試作)	—	—
16	向拝奥の彫刻物 (金龍)	—	阿形 石膏製作 咩形 平成石膏を借用	有り	1,050×1,850×950@2
17	向拝奥の彫刻物 (獅子)	製作	(部分試作)	—	—
25	2階 御差床 龍柱	—	石膏製作	有り	270×400×1,200@2
26	2階 御差床 羽目板	製作	(部分試作)	—	—
27	2階 天井額木	製作	(部分試作)	—	—
28	2階 内法額木	製作	—	—	—

番号	焼物分野 製作物名称	下絵	原型	原型保管箱	サイズ(mm)
18	龍頭棟飾(大棟)	—	石膏製作	有り	880×1,050×890@2
19	龍頭棟飾(唐破風) 正面	—	石膏製作	有り	1,120×815×860
20	降棟 鬼瓦	—	石膏製作	なし	750×870×1,130@2

番号	瓦類分野 製作物名称	下絵	原型	原型保管箱	サイズ(mm)
22	赤瓦	—	(瓦当の3Dデータ製作)	—	—
23	雲形飾瓦	—	小型のみ凸型石膏製作	有り	395×300×225@2

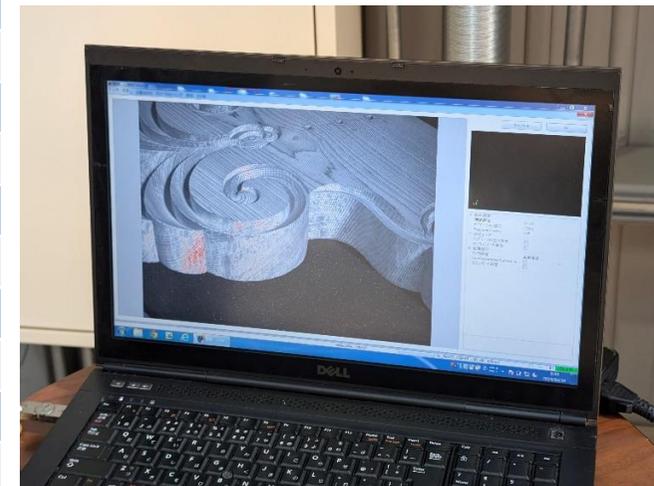
番号	染織分野 製作物名称	下絵	原型	原型保管箱	サイズ(mm)
32	御差床垂飾(瓔珞)	製作	(部分試作)	—	1,300×440×10

4. 完成した製作物の3Dスキャンについて

- 完成した製作物のうち、彫刻を施しているものは、彫刻完成後(彩色前)の姿で3Dスキャンを撮影済。
- 国への引き渡し前に撮影できなかった製作物については、正殿建物の3D撮影時に撮影するなど、引き続き、実施方法を検討する

3Dスキャン撮影済の製作物

番号	分野	製作物名称	数量	単位
1	彫刻	県博所蔵の高欄石獅子遺物 (【No.6】親柱上の獅子の参考)	1	体
2	彫刻	【No.11】唐破風妻飾	1	式
3	彫刻	【No.12】唐破風 懸魚 (中央懸魚)	1	面
4	彫刻	【No.12】唐破風 懸魚 (降懸魚(1))	1	面
5	彫刻	【No.12】唐破風 懸魚 (降懸魚(2))	1	面
6	彫刻	【No.13】入母屋破風 懸魚	1	面
7	彫刻	【No.14】向拝 透欄間 (牡丹唐草、獅子) (正面中の間)	2	面
8	彫刻	【No.14】向拝 透欄間 (牡丹唐草、獅子) (正面脇の間 南殿側)	2	面
9	彫刻	【No.14】向拝 透欄間 (牡丹唐草、獅子) (正面脇の間 北殿側)	2	面
10	彫刻	【No.14】向拝 透欄間 (牡丹唐草、獅子) (側面 南殿側)	2	面
11	彫刻	【No.14】向拝 透欄間 (牡丹唐草、獅子) (側面 北殿側)	2	面
12	彫刻	【No.15】向拝奥の彫刻物 (牡丹に獅子・唐草)	1	面
13	彫刻	【No.16】向拝奥の彫刻物 (金龍) (阿形)	1	体
14	彫刻	【No.16】向拝奥の彫刻物 (金龍) (吽形)	1	体
15	彫刻	【No.17】向拝奥の彫刻物 (獅子) (阿形)	1	面
16	彫刻	【No.17】向拝奥の彫刻物 (獅子) (吽形)	1	面
17	彫刻	【No.25】2階 御差床 龍柱 (阿形)	1	体
18	彫刻	【No.25】2階 御差床 龍柱 (吽形)	1	体
19	彫刻	【No.26】2階 御差床 羽目板	12	面
20	彫刻	【No.28】2階 内法額木 (中央)	1	面
21	彫刻	【No.28】2階 内法額木 (左側)	1	面



3Dスキャンの撮影状況

5. 令和6年度の記録撮影について①

- 製作に係る映像記録及び写真撮影は、令和6年度も継続的に実施。

製作記録（動画）の撮影状況（第5回監修会議 [2024年9月] 以降） ※この他、製作技術者撮影の写真や映像等あり

No.	分野	製作物名称	日付	内容
1	彫刻	親柱上の獅子	2024/9/12	粘土塑造作業
7	彫刻	向拝奥の彫刻物(牡丹に獅子・唐草)	2024/11/26-27	詳細彫り
8	彫刻	唐破風妻飾	2024/11/28-29	詳細彫り
10	彫刻	向拝奥の彫刻物(金龍)(獅子)	2024/12/13	詳細彫り
16	彫刻	石高欄、親柱上の獅子	2025/3/4	加工・彫刻
2	焼物	龍頭棟飾	2024/10/3	素焼き（窯入れ）
3	焼物	龍頭棟飾	2024/10/4	素焼き（点火）
5	焼物	龍頭棟飾	2024/10/7	素焼き（窯出し）
6	焼物	龍頭棟飾	2024/11/11	仮組み（唐破風）
11	焼物	鬼瓦	2025/1/22	手捻り（下部）
12	焼物	鬼瓦	2025/1/24	施釉・本焼成（窯出し）
14	焼物	鬼瓦	2025/2/6	手捻り（上部）
15	焼物	鬼瓦	2025/2/28	素焼き（窯入れ）
17	焼物	鬼瓦	2025/3/5	素焼き（窯出し）
4	染織	垂飾	2024/10/7	瑞雲文刺繍
9	染織	垂飾	2025/12/9	龍文琉球千鳥繡い
13	染織	垂飾	2025/2/4	龍文金糸繡い



製作風景

5. 令和6年度の記録撮影について②



龍頭棟飾の素焼き窯出し
(焼物・2024/10/7)



向拝奥の彫刻物(牡丹に獅子・唐草)の
詳細彫り (彫刻・2024/11/27)



龍文 琉球千鳥繡い
(染織・2024/12/9)



金龍および獅子の詳細彫り
(彫刻・2024/12/13)



龍文金糸繡い
(染織・2025/2/4)



鬼瓦の窯入れ(素焼き)
(焼物・2025/2/6)

6. 製作に係る検討記録（記録集）のとりまとめについて①

- 国の技術検討委員会では、正殿の復元に向けた技術検討の内容やその成果、復元根拠などを後世に残すため、記録誌を作成するという基本的な考え方を確認。（令和6年度第2回技術検討委員会 R7/2/21）
- 沖縄県においても、国と連携しつつ、今後の修復や維持管理、新たな製作を行う際に活用できるよう、首里城復興基金事業での調達・製作・監修等についてとりまとめた記録集を、以下の基本的な考え方（案）に基づいて、今後作成したい。内容や詳細については、各ワーキング部会にて確認を行う。
- また、記録集やその他事業で用いた資料については、一括保管を含め、今後も国とも連携・調整していく。

【（国）正殿の記録誌作成の基本的な考え方】

■記録誌作成の目的

- 技術検討委員会等の検討内容の公式記録の作成
- 復元根拠の明確化
- 将来の研究、改修や維持管理等の参考資料
- 伝統技術や最新の技術を紹介

■記録すべき主なポイント

- 前回の復元と今回の復元とで異なる点とその理由（平成復元以降に明らかになった知見や研究成果等の根拠資料、議論の経緯、検討結果等）
- 今回の復元に反映できなかった点（①材料等の関係で復元に反映できなかったもの（かけ合わせ真ぬり等）、②根拠不足等のため今後の課題として残ったもの（二階御差床高欄沈金文様の一部等））
- 復元根拠資料から得られた内容と分析のまとめ
- 防災・防火対策の内容、根拠、考え方
- 伝統技術、最先端技術など正殿建設に用いた技術や工法、復元過程の工夫

■今後のスケジュール

- 正殿完成後速やか（令和8～9年度）に発行できるよう、令和7年度より全体的な構成の検討、過年度検討結果のとりまとめ等を随時進める。

【（県）首里城復興基金事業の記録集の考え方（案）】

■復興基金事業記録集作成の目的

- 監修会議及びワーキング部会の検討内容のまとめ
- 製作過程の経緯や製作手法の決定に係る根拠の明確化
- 製作物の修復や維持管理、新たに製作する際の参考資料
- 製作技術者における伝統技術の継承、人材育成の参考資料

■記録の対象

- 首里城復興基金事業の全対象（彫刻・焼物・瓦類・染織と調達物）

■記録集の主なポイント

- 製作物の概要（寸法、材料、製作者、製作工程等）、検討経緯、成果物、関係資料等について、写真や図を使用しながらこれまでの成果を冊子版として編集
- 国から提示された仕様を踏まえながら、本事業にて分析した成果（デジタル高精細写真等）を含めて、平成の復元との違いを整理
- 製作段階や監修の際の細部の検討経緯、製作技術上のポイント、県産材活用の留意点、今後の課題等を取りまとめ

■今後のスケジュール

- 令和7年度より随時編集を進める。

7. 情報発信の状況（見せる復興との連携）

- ニュースリリースによる情報発信（製作物の引渡し段階で実施）
- 復興展示室における映像展示や実物展示
- SNSによる成果物の引き渡し情報の発信

▼ニュースリリース

- (1)内法額木・御差床龍柱
- (2)向拝透欄間 (3)向拝奥(金龍)
- (4)唐破風妻飾・向拝奥(獅子)・
(牡丹に獅子・唐草)



▼復興展示室での展示と復興イベントでの解説



▼復興展示室での映像（龍棟棟飾）



▼SNSでの発信状況（木彫刻）

OKINAWA 沖縄県首里城復興課
@okinawa_SMpref

2025.1月23日 ...

首里城正殿の一部となる
唐破風妻飾の
作業現場をレポート!!

富山県で製作されている
唐破風妻飾(からはふつまかざり)✨

明日、首里城に搬入予定です。

#首里城復興



【参考】造形根拠の整理表 (2025.3.13時点)

【凡例】 ○:根拠として使用した △:ある程度参考とはしている -:根拠として使用していない

区分	番号	制作物名称	古文書絵図		遺物	古写真			拝殿図	その他	備考 (造形作業時の留意点)
			寸法記	御普請 絵図帳		仏海軍	鎌倉	その他			
石彫刻	1	礎盤(向拝の柱の礎盤、礎石含む)	△	△	○	-	○	○	○	-	遺物・古写真等で検討
	2	礎石(外周柱用/内側柱用/束柱用)	-	-	○	-	-	○	○	-	遺物・古写真等で検討
	3	大龍柱	○	○	○	△	○	○	○	-	遺物・古写真等で検討
	4	大龍柱の台石	○	○	-	○	○	○	○	-	遺物・古写真・拝殿図等で検討
	5	小龍柱	○	○	○	△	○	○	○	-	遺物・森古写真等で検討
	6	石高欄及び登高欄 親柱上の獅子	○	○	○	△	-	-	-	○	遺物・玉陵調査・古写真等を参考に検討
	7	石高欄(親柱/束石/地覆石/羽目石/笠石)	△	△	○	△	○	○	○	○	遺物・拝殿図・火害製作物等で検討
	8	持送石	-	-	○	△	○	○	○	○	遺物・拝殿図・火害製作物等で検討
木彫刻	11	唐破風 妻飾(火焰宝珠、蟬股、金龍、瑞雲)	○	○	-	○	○	○	○	○	鎌倉・田辺・森古写真・拓本等で検討
	12	唐破風 懸魚	○	○	-	△	○	○	○	-	拝殿図・高精細化古写真等で検討
	13	入母屋破風 懸魚	-	-	-	-	-	○	○	-	拝殿図・昭和修理写真で検討
	14	向拝 透欄間(牡丹唐草、獅子)	○	○	-	△	○	○	○	-	高精細鎌倉古写真等で検討
	15	向拝奥の彫刻物(牡丹に獅子・唐草)	○	○	-	○	△	-	-	○	仏海軍古写真・円覚寺伝世品等で検討
	16	向拝奥の彫刻物(金龍)	○	○	-	-	-	-	-	-	平成復元を参考
	17	向拝奥の彫刻物(獅子)	○	○	-	○	-	-	-	○	仏海軍古写真・円覚寺伝世品等で検討
焼物	18	龍頭棟飾(大棟)	△	△	△	△	○	-	△	-	高精細化した鎌倉古写真等で検討
	19	龍頭棟飾(唐破風) 正面(胴体含む)	△	△	△	△	○	-	△	-	高精細化した鎌倉古写真等で検討
	20	降棟 鬼瓦	△	△	△	△	○	-	△	-	高精細化した鎌倉古写真等で検討
瓦類	21	磚	-	-	○	△	-	-	○	-	遺物で大きさ、拝殿図で敷き方等を検討
	22	赤瓦(瓦当文様)	-	-	○	-	-	-	-	○	正殿遺物・伊是名玉御殿遺物で検討
	23	雲形飾瓦(宝珠含む)	△	△	○	△	○	-	△	-	遺物・高精細化した鎌倉古写真等で検討
木彫刻	24	2階 御差床 須弥壇(高欄含む)	○	○	-	-	○	△	○	△	鎌倉古写真・拝殿図・その他事例等で検討
	25	2階 御差床 龍柱	○	○	-	-	-	-	-	△	寸法記・小龍柱古写真(森政三)等で検討
	26	2階 御差床 羽目板	○	○	-	-	-	-	-	○	寸法記・同時代の琉球漆器等で検討
	27	2階 天井額木	○	○	-	-	-	-	-	○	寸法記・円覚寺伝世品・その他事例等で検討
	28	2階 内法額木	○	○	-	-	-	-	-	○	寸法記・円覚寺伝世品、その他事例等で検討
染織	32	1階 御差床 垂飾(瓔珞)	○	○	-	-	○	-	-	○	寸法記・古写真・同時代の伝世品等で検討

(1768年)

(1846年)

(1877年)

(1922年頃)

拝殿図：昭和修理(1933年頃)